学校だより

大阪市立玉川小学校
１１月号
令和８年１０月３０日

「読書」は、知恵と心の栄養

過ごしやすい時期もつかの間、肌寒さを感じる日が続いております。ご家族の体調管理は大丈夫ですか？

さて、10月27日から全国秋の読書週間が始まりました。日暮れが早くなり、家で過ごす時間が増えるこの時期は、読書をするのにちょうどよい季節です。また、読書は子どもたちの知識を広げるとともに、確かな知恵と豊かな心を育てる上で、とてもよい栄養になります。学校では、「読書」に対する興味や関心を高め、語彙を豊かにするために、火曜日と木曜日に朝読書をしたり、読み聞かせや図書館開放の時間を設けたりしています。

読書には読書でしか味わえないよさがあります。

①自分のペースで読み進めることができる。
②自分の頭や心の中で自由に思い描ける。
③言葉や知識がどんどん広がる。
④まだ見ぬ世界や経験のないことに出会える。
⑤昔の人の考え方や生き方に学べる。
⑥遠い国の人の考え方や生き方が分かる。
⑦人の痛みや悲しみ、喜びが分かるようになる。
⑧集中力や粘り強さが身につく。

など、子どもたちが学ぶ力や生きる力の土台として脳や心の中に蓄えられていくのです。

しかし、本から遠ざかっている子どもに、急に「本を読みなさい」と言ってもうまくいかないでしょう。本好きに育てるには、知らない間に自らが本を手にとるよう仕向けて行くのがよい方法です。まずお家の方も一緒に本を手にとり、本に親しむ姿を子どもたちに見せることが、子どもが本に興味をもつきっかけになります。

本校でも、10 月 26 日から１週間を「読書週間」にしております。たとえ一日に 30 分からでも、携帯電話やスマホを閉じて、テレビやパソコンのスイッチを切って、家族みんなで読書をする時間を作ってみてはいかがでしょうか？